



川柳雑感

淀縄 武

少なからず宣伝めいてしまうが、もう四年になろうか、市民講座の講師の依頼を受け、川柳講座を開く機会(二年二度)に恵まれた。その後、受講生だった人達を中心となって、念願でもあった川柳の会(筑西川柳会)の発足に至った。正に筑西に誕生した川柳第一子だった。

現在まで、筑西に川柳愛好者のグループは無かった。私の知る限り、茨城にも水戸、土浦、龍ヶ崎、取手、牛久に活動の吟社がある程度。短詩の世界なら短歌、俳句の結社に凝縮され、勿論、市町村全体に跨っている。この片寄った風潮はそのまま日本全体の風潮でもある。そこには川柳が俳句より格下に見られている事情もある。歴史的に一時期「ばれ句＝川柳」と云われて卑猥な文芸の風潮を生み、現在まで興味本位に引き継がれてきているからかもしれないと推測されている。川柳の三要素としての「ユーモア、軽み、穿ち」をまともに考えることなく、駄洒落や一時的な笑い、個人的な誹謗、中傷も川柳とされて世に蔓延したことが所謂「悪しき川柳」の風潮を助長しているからと考えられている。

そんなことから、長い川柳歴の自分自身にとって、少なからず、巷の川柳に目を向け、江戸古川柳二百五十年を遡り、川柳本来の清流が濁ることのないよう先づは地元地域社会からその流れのために、大それた思い入れで、世界に誇れる美しい日本語から生まれ出た川柳文化を、ここでもう一度認識し勉強できる川柳会を夢見ている。

いま、川柳界では「教科書に川柳を」の運動が行われていると聞く。子供の頃に学ばせてこそ川柳も短歌や俳句のように日本中に根を下ろし、やがては人々の心に枝葉をひろげて花開く土壌となる。その環境を夢みたい。

日本の短詩はほとんどが七五調である。五七五の俳句、五七五七七の短歌をはじめ七七七五の都都逸など日本人に心地よく流れるリズムである。そしてこのリズムが短詩に最も大事な要素として集約され今日に引き継がれた奇数語だ。本来日本語の基調は偶数音である。二音語、四音語の単語が最も多いとされている。発音してみて偶数音のリズムも決して悪くない。そしてこの偶数音に一字の助詞を付けた奇数音で新たなリズムを生んでいる。助詞を上手く活用しながら日本語は奇数音を多く作り出し独特のリズムを生む語が形成され、短詩につながる七五調となったようだ。

川柳とはと問われ、これを端的に五七五七七のリズムで見事に述べた答えを紹介しておこう。

川柳とは、ズバリ斬る ホロリ泣かせる チクリ刺す ニンマリ笑う ポンと膝打つ
—NHK学園 大木俊秀氏

(よどなわ たけし／筑西市文化協議会明野支部長)

※タイトル文字は滝平二郎

1月の予定

●おはなし会 午後2時から児童室

1月13日(日)
『てんぐのかくれみの』
『ヨセフのだいじなコート』

1月20日(日)
『こころやさしいワニ』
『てぶくろ』

●明野美術会第7回作品展

油絵、水彩画、パステル画などを出展します。

日時：1月13日(日)～27日(日) 午前10時～午後4時まで
(※ただし、15日、21日は休館)

場所：明野図書館 視聴覚室



●年末年始休館のお知らせ

12月28日(金)～1月4日(金)まで休館となります。休館中に返却される方は、返却ポストをご利用ください。

なお、視聴覚資料につきましては、破損防止のため1月4日以降、直接カウンターにお返しください。

図書館カレンダー

1月 JAN						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【開館時間】
午前10時から
午後6時まで

■は休みです。

2月 FEB						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

—くらしに生かそうみんなの図書館— 明野図書館 TEL:0296-52-2466

花さき山のホームページアドレスは、
<http://library.city.chikusei.lg.jp/hanasakiyama/index.html> です。